



平成17年基準

## 平成22年 岐阜県鉱工業指数(年報)

### 1 概況

生産指数 前年比13.9%の上昇  
 出荷指数 前年比16.7%の上昇  
 在庫指数 前年比1.9%の上昇

平成22年1年間の生産指数は、食品工業、繊維工業が低下したものの、一般機械工業、輸送機械工業等が上昇したため、前年比13.9%の上昇となった。

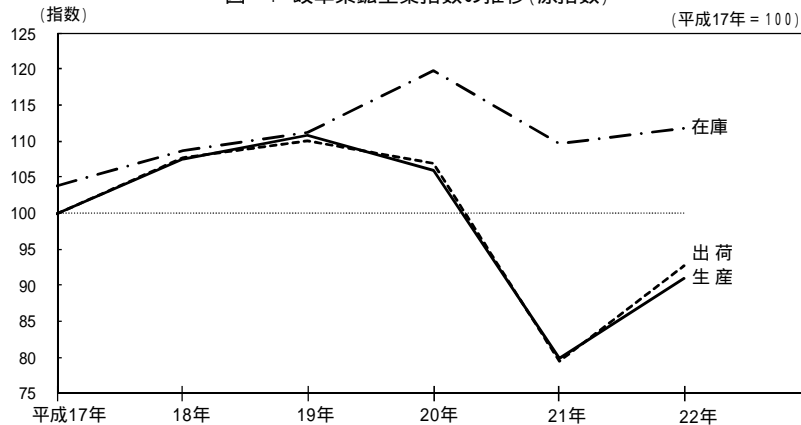
また、出荷指数は、一般機械工業、輸送機械工業等が上昇したため16.7%の上昇となり、在庫指数は、その他工業、金属製品工業等が上昇したため1.9%の上昇となった。

(図-1)

(平成17年=100)

区分	生産		出荷		在庫	
	指数	前年比(%)	指数	前年比(%)	指数	前年比(%)
平成17年	100.0	-	100.0	-	103.8	-
18	107.5	7.5	107.7	7.7	108.7	4.7
19	110.8	3.1	110.0	2.1	111.3	2.4
20	106.0	4.3	107.0	2.7	119.9	7.7
21	79.8	24.7	79.5	25.7	109.7	8.5
22	90.9	13.9	92.8	16.7	111.8	1.9

図-1 岐阜県鉱工業指数の推移(原指数)



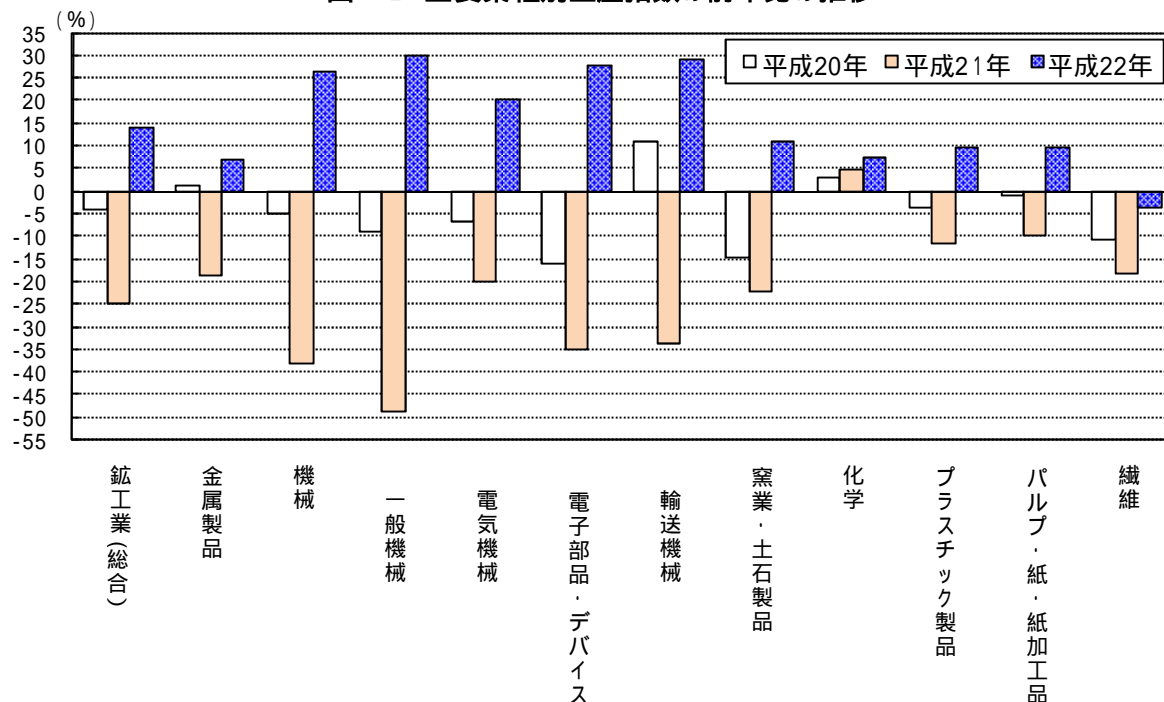
注：年指数の値は、生産及び出荷指数は月指数の平均値、在庫指数は年末値による。

## 2 主要業種別生産指数の前年比

主要10業種の生産指数を業種別に前年と比べると、上昇したのは、一般機械工業(前年比29.9%)、輸送機械工業(同29.1%)、電子部品・デバイス工業(同27.5%)、電気機械工業(同20.1%)、窯業・土石製品工業(同10.8%)、プラスチック製品工業(同9.7%)、パルプ・紙・紙加工品工業(同9.6%)、化学工業(同7.2%)、金属製品工業(同7.1%)の9業種となった。

一方、低下したのは、繊維工業(同3.7%)の1業種となった。(図-2、表-1)

図-2 主要業種別生産指数の前年比の推移



## 3 全国、中部との生産指数の比較

平成22年の全国における生産指数は、前年比16.4%の上昇であった。  
また、中部においては22.0%の上昇であった。

(平成17年=100)

区分	岐阜県		全国		中部	
	生産指数	前年比 (%)	生産指数	前年比 (%)	生産指数	前年比 (%)
平成17年	100.0	-	100.0	-	100.0	-
18	107.5	7.5	104.5	4.5	107.7	7.7
19	110.8	3.1	107.4	2.8	111.0	3.1
20	106.0	4.3	103.8	3.4	105.5	5.0
21	79.8	24.7	81.1	21.9	78.7	25.4
22	90.9	13.9	94.4	16.4	96.0	22.0

「中部」とは、中部経済産業局管内5県(愛知、三重、石川、富山、岐阜)

資料：経済産業省、中部経済産業局

## 【岐阜県鉱工業指数作成の概要】

- 1 基準時 平成17年
- 2 採用品目 付加価値額ウエイト生産指数 187(188)品目  
生産者製品出荷指数 185(186)品目  
生産者製品在庫指数 127品目  
注：( )は電力・ガス事業を加えた数字である。
- 3 ウエイト 業種別ウエイト算出の基礎資料は、製造工業については「平成17年工業統計調査」、鉱業については「本邦鉱業のすう勢調査」から求め、個々の品目ウエイトは上記以外に「経済産業省生産動態統計調査」「岐阜県鉱工業生産動態統計調査」などによっている。  
なお、採用品目がない、又は、極端に代表率が低いものについては、業種全体又は財全体にふくらましを行った。
- 4 算式 基準時固定加重算術平均法(ラスパイレス算式)
- 5 分類 分類は、日本標準産業分類に準拠し、これに該当する各品目を所属させた業種分類と、品目の経済的用途に着目した特殊分類の二通りの方法によっている。
- 6 季節調整 センサス局法(X-12-ARIMAの中のX-11デフォルト)
- 7 年間補正 平成22年1月分から平成22年12月分までの実績値を見直して確定値を算出し、原指数を再計算、同時に季節指数を再計算し季節調整済指数を更新した。
- 8 利用上の注意(1) 解説文中で特に注意書きのない場合、生産指数の動向を述べたものである。  
(2) グラフに記入された ~ の数字は、第1四半期~第4四半期(暦年ベース)を表している。  
(3) 指数の伸び率の記述は、原則として「上昇」、「低下」を用いているが、品目別分類を使用する場合には、混乱を避けるため「増加」、「減少」を用いている。  
(4) 在庫指数の年、四半期の数値は、年末、期末値を用いている。

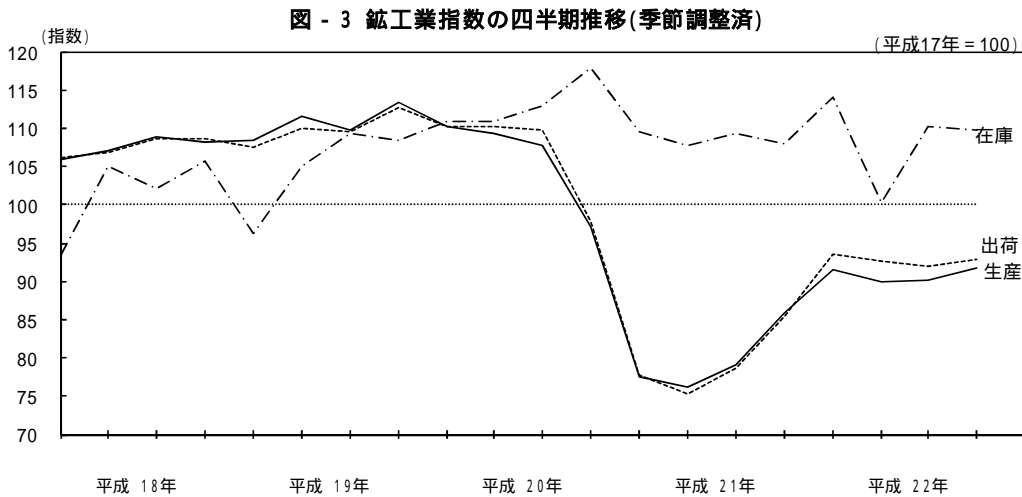
<平成22年 岐阜県鉱工業指数の詳細について>

1 鉱工業指数の四半期推移

平成22年の生産指数を四半期ごとにみると、第1四半期は前期比6.8%の上昇、第2四半期は1.7%の低下、第3四半期は0.2%の上昇、第4四半期は1.8%の上昇となり、第1四半期まで大幅に上昇し、その後横ばい傾向であった。

また、出荷指数も生産指数と同様に、第1四半期まで大幅に上昇し、その後横ばい傾向であった。一方、在庫指数は第3四半期まで上昇と低下を繰り返し、その後横ばい傾向であった。

(図-3、表-2)

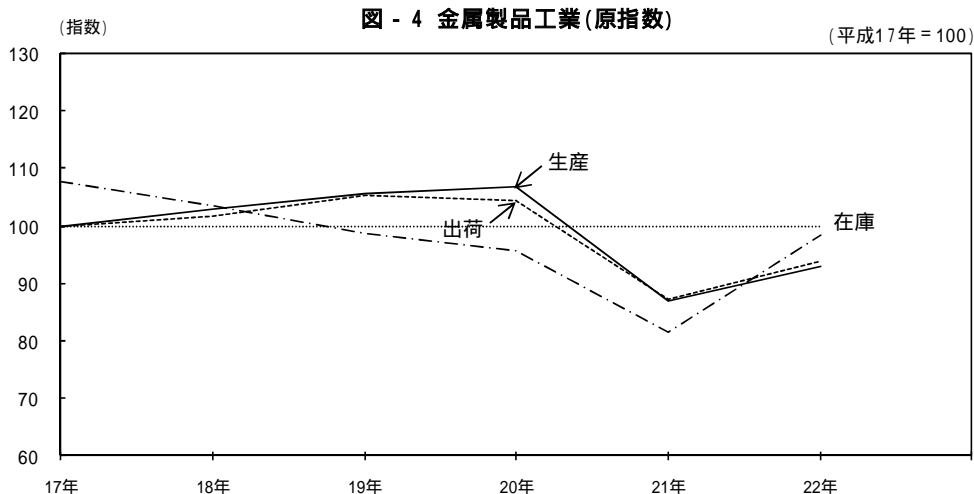


2 主要業種別指数の動向

(1) 金属製品工業

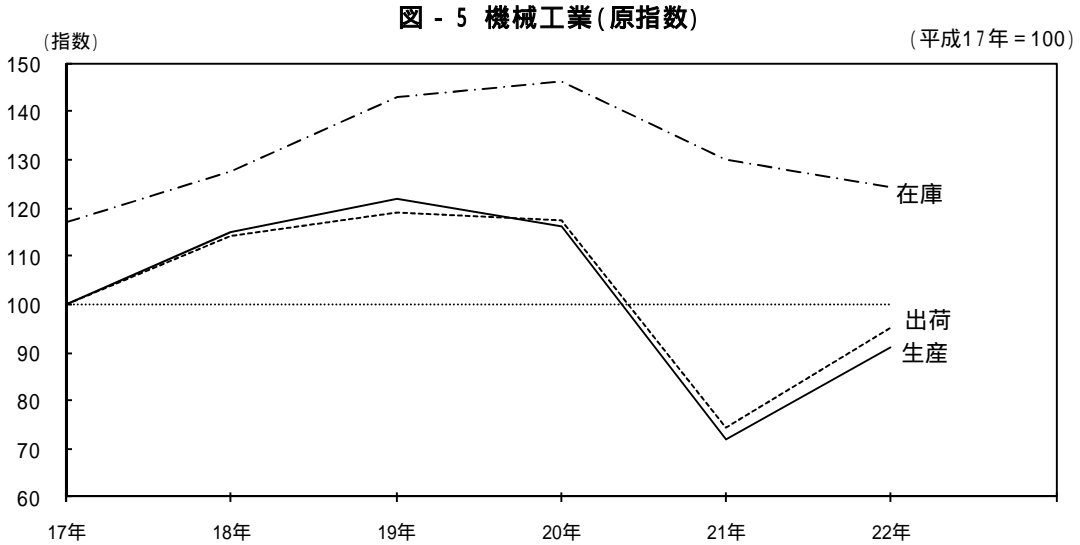
- ・生産指数は、スチール又はステンレスシャッター、アルミサッシ等が減少したものの、ボルト・ナット、ばね等が増加したため、前年比7.1%の上昇となった。
- ・出荷指数は、ボルト・ナット、ばね等が増加したため、前年比7.8%の上昇となった。
- ・在庫指数は、超硬チップ、アルミサッシ等が増加したため、前年比21.0%の上昇となった。

(図-4、表-1)



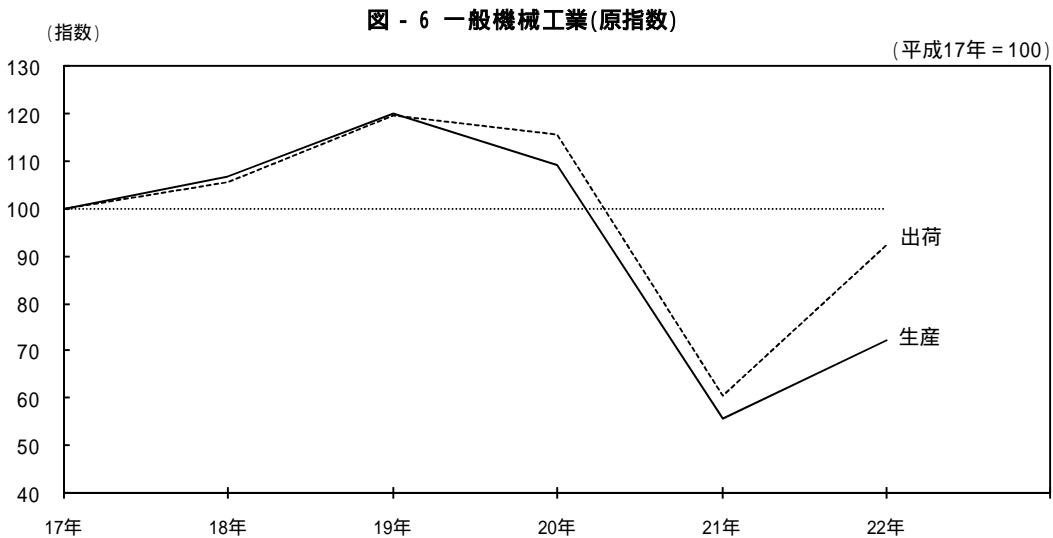
## (2) 機械工業

- ・生産指数は、一般機械工業、輸送機械工業等が上昇したため、前年比26.2%の上昇となった。
  - ・出荷指数は、一般機械工業、輸送機械工業等が上昇したため、前年比28.1%の上昇となった。
  - ・在庫指数は、前年比4.4%の低下となった。
- (図 - 5、表 - 1)



### (2) - ア 一般機械工業

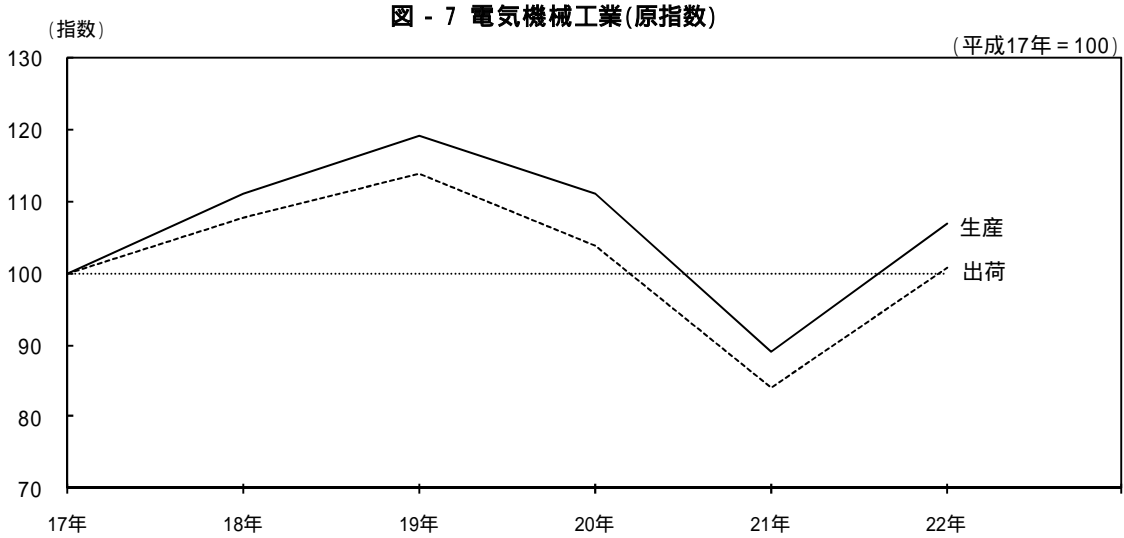
- ・生産指数は、はん用ディーゼル機関100PS以上500PS未満、印刷機械が減少したものの、油圧機器、旋盤等が増加したため、前年比29.9%の上昇となった。
  - ・出荷指数は、超硬工具(超硬チップを除く)、旋盤等が増加したため、前年比52.6%の上昇となった。
- (図 - 6、表 - 1)



(2) - イ 電気機械工業

- ・生産指数は、非標準三相誘導電動機（70W以上）開閉制御装置等が減少したものの、単相誘導電動機、換気扇等が増加したため、前年比20.1%の上昇となった。
- ・出荷指数は、単相誘導電動機、換気扇等が増加したため、前年比19.7%の上昇となった。

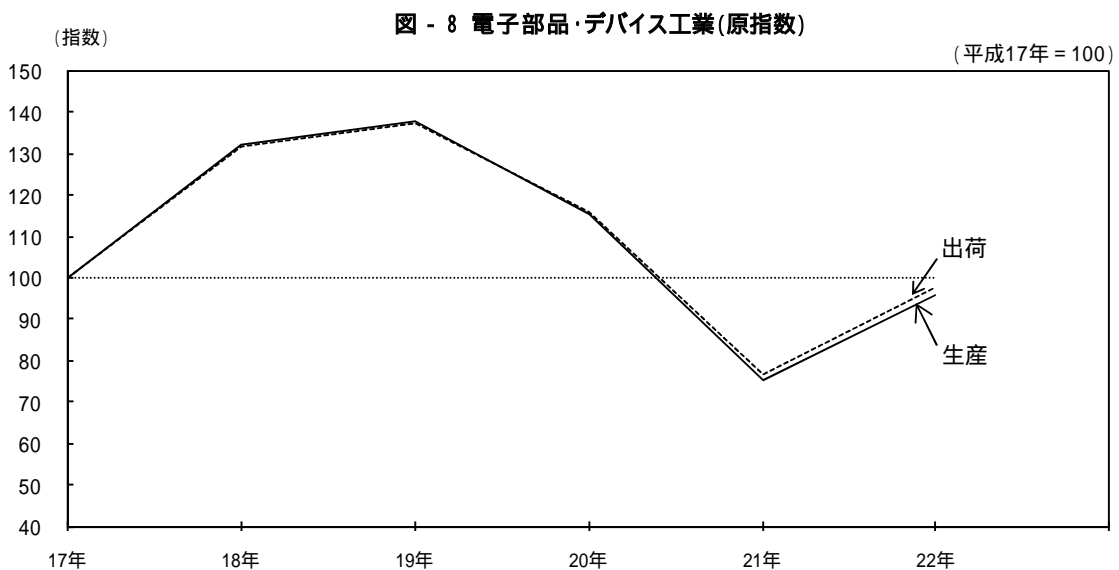
(図 - 7、表 - 1)



(2) - ウ 電子部品・デバイス工業

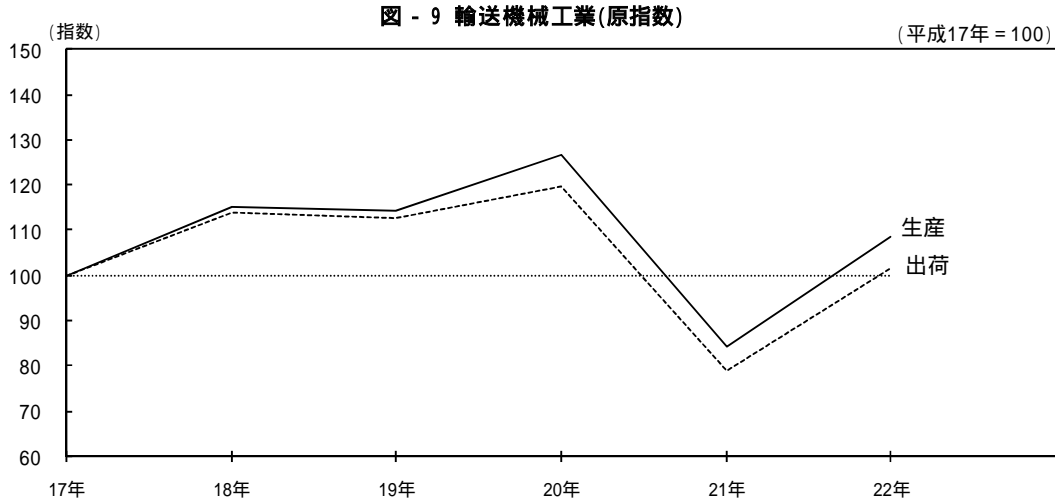
- ・生産指数は、液晶素子が減少したものの、電子回路基板、抵抗器が増加したため、前年比27.5%の上昇となった。
- ・出荷指数は、電子回路基板、抵抗器が増加したため、前年比27.7%の上昇となった。

(図 - 8、表 - 1)



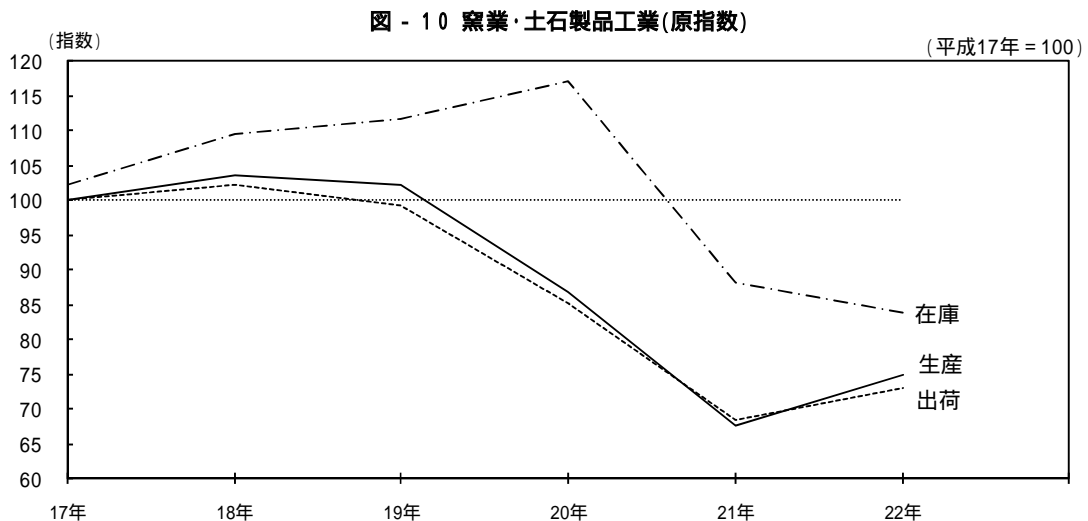
## (2) - I 輸送機械工業

- ・生産指数は、シャシー及び車体部品、特装ボデーが減少したものの、乗用車ボデー、懸架制動装置部品（ショックアブソーバ）等が増加したため、前年比29.1%の上昇となった。
  - ・出荷指数は、乗用車ボデー、懸架制動装置部品（ショックアブソーバ）等が増加したため、前年比29.0%の上昇となった
- (図 - 9、表 - 1)



## (3) 窯業・土石製品工業

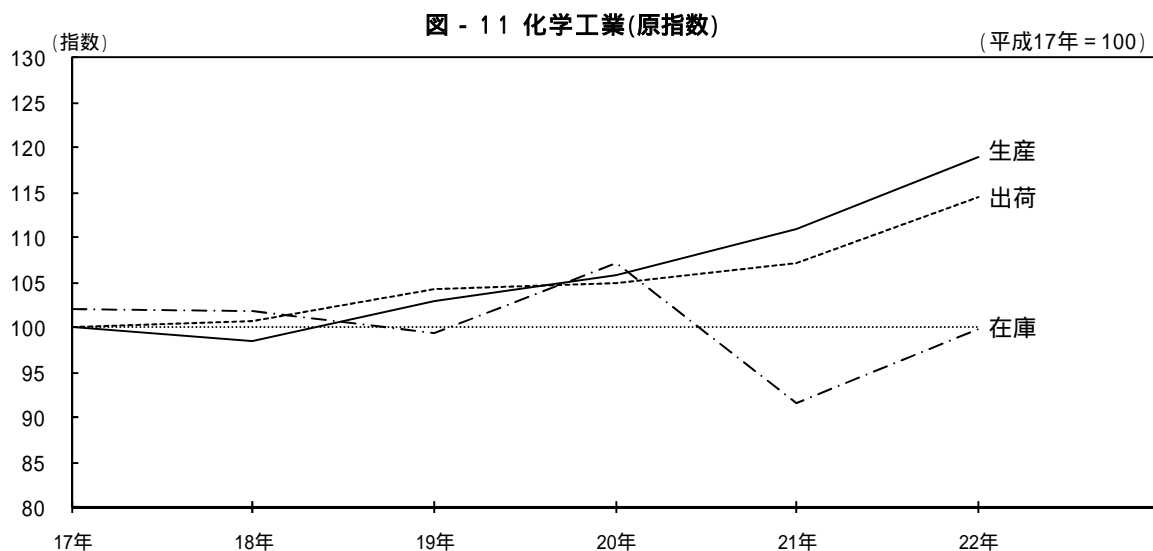
- ・生産指数は、タイル(陶磁器製タイル)、気泡コンクリート製品等が減少したものの、触媒担体・セラミックフィルタ、耐火れんが(不定形耐火物を除く)等が増加したため、前年比10.8%の上昇となった。
  - ・出荷指数は、触媒担体・セラミックフィルタ、生石灰等が増加したため、前年比6.4%の上昇となった。
  - ・在庫指数は、タイル(陶磁器製タイル)、ガラス短繊維製品等が減少したため、前年比5.0%の低下となった。
- (図 - 10、表 - 1)



#### (4) 化学工業

- ・生産指数は、無水酢酸、炭酸ガスが減少したものの、医薬品、触媒（自動車排気ガス浄化用）等が増加したため、前年比7.2%の上昇となった。
- ・出荷指数は、医薬品、触媒（自動車排気ガス浄化用）が増加したため、前年比6.9%の上昇となった。
- ・在庫指数は、活性炭、メラミン樹脂等が増加したため、前年比9.0%の上昇となった。

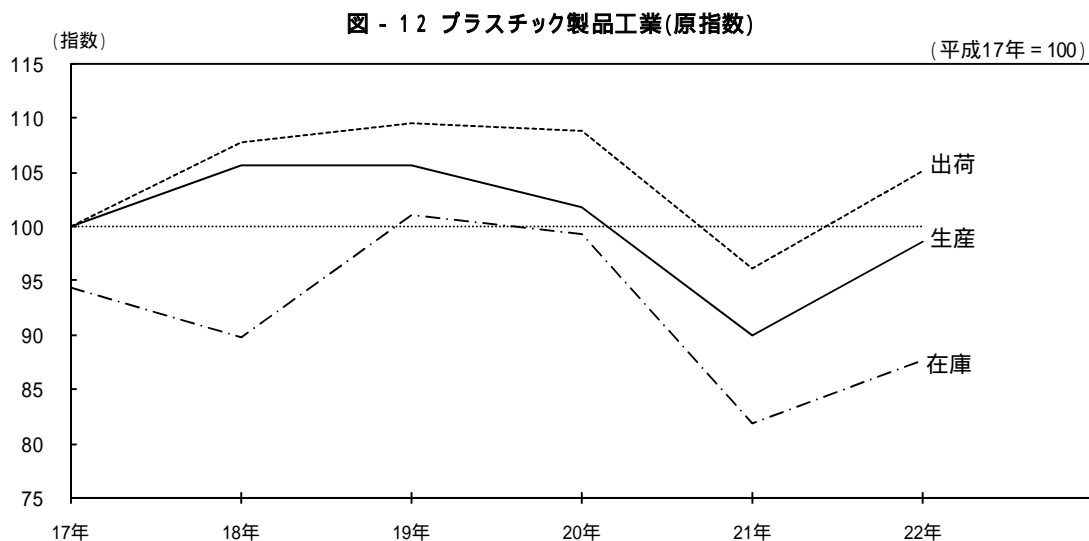
(図 - 11、表 - 1)



#### (5) プラスチック製品工業

- ・生産指数は、発泡プラスチック製品、プラスチック製機械器具部品等が減少したものの、プラスチック製容器、プラスチック製フィルム等が増加したため、前年比9.7%の上昇となった。
- ・出荷指数は、プラスチック製容器、プラスチック製フィルム等が増加したため、前年比9.3%の上昇となった。
- ・在庫指数は、プラスチック製フィルム、プラスチック製機械器具部品等が増加したため、前年比7.1%の上昇となった。

(図 - 12、表 - 1)

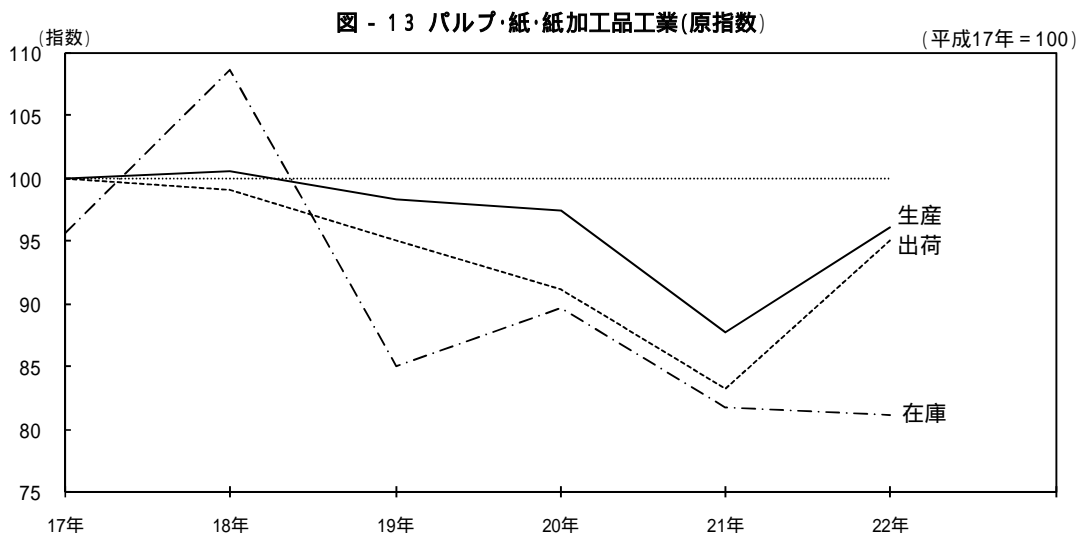




## (6) パルプ・紙・紙加工品工業

- ・生産指数は、情報用紙、衛生用紙等が減少したものの、雑種紙、包装用紙等が増加したため、前年比9.6%の上昇となった。
- ・出荷指数は、雑種紙、包装用紙等が増加したため、前年比14.3%の上昇となった。
- ・在庫指数は、特殊印刷用紙、情報用紙等が減少したため、前年比0.7%の低下となった。

(図 - 13、表 - 1)



## (7) 繊維工業

- ・生産指数は、ニット生地染色整理、毛織物染色整理等が増加したものの、織物製外衣、毛織物等が減少したため、前年比3.7%の低下となった。
- ・出荷指数は、毛織物、ポリエステル短繊維等が増加したため、前年比3.0%の上昇となった。
- ・在庫指数は、羽毛・羽根ふとん、不織布等が減少したため、前年比27.9%の低下となった。

(図 - 14、表 - 1)

